

でした。その後、高知市横浜の永野廣さんを訪ねたところ、このカニが頻繁に採れているということで驚きました。

さっそく永野さんご夫妻にお願いし、刺し網に掛かる動物を提供してもらいました。問題のこのカニは4年ほど前から網に掛かるようになったとのことでした。6月から9月までで60個体あまりが入手できました。



2003年9月12日に衣ヶ島周辺で採集されたホンコンイシガニの抱卵個体。

正体はなかなか分かりませんでした。ようやくホンコンイシガニであることをつき止めました。この種は、1835年にFabriciusにより命名され、日本ではSakaiによる1983年の西表島と奄美大島での記録しかありません。

このカニは、額に先端が丸い歯を6本持ち、前側縁（体の側面）に6歯があり、第6歯がきわめて強いという特徴があります。カニの額や前側縁のトゲは通常、「歯」と呼びます。また、鋏がやたら頑丈で、網をずたずたにするそうです。残念ながら、身が少なく、食用になりません。韓国からケープタウンに至るインド・西太平洋に分布しますが、やはり温暖化の影響でしょう。このカニが浦戸湾で再生産（繁殖）しているのは、多数の抱卵個体を得られたことで証明されました。

2004年10月20日発行 発行者：町田吉彦（理学博士、高知大学理学部教授、
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。